

「社会健康医学」基本計画策定委員会（第3回）会議録（議事要旨）

日 時	平成29年10月10日（火）午後3時00分から午後4時30分まで
場 所	ホテルアソシア静岡 15階「ベラビスタ」
出席者 職・氏名	出席委員：10名（敬称略） 本庶佑、鬼頭宏、田中一成、鶴田憲一、徳永宏司、中山健夫、 宮田裕章、宮地良樹、望月律子、山本敏博 ※宮田委員はwebによる遠隔参加 欠席委員：2名（敬称略） 佐古伊康、山本清二 事務局 副知事 吉林章仁 健康福祉部長 山口重則 健康福祉部理事 壁下敏弘 健康福祉部理事 土屋厚子 健康福祉部管理局長 前島稔生 ほか健康福祉部職員
議 題	1 静岡県が取り組むゲノムコホート研究について 2 研究推進の拠点となる仕組みについて 3 社会健康医学研究推進基本計画（仮称）の骨子（案）について 4 その他
配布資料	議事次第 「社会健康医学」基本計画策定委員会委員名簿 資料1 「社会健康医学」基本計画策定委員会（第3回）について 資料2 ゲノムコホート研究 資料3 「研究推進の拠点となる仕組み」の手法の検討 資料4 社会健康医学研究推進基本計画（仮称）の骨子（案） 参考資料1 「社会健康医学」基本計画策定委員会（第2回）における意見 参考資料2 全国におけるゲノムコホート研究事例 参考資料3 全国における研究推進拠点の事例 参考資料4 浜松医科大学への県の寄附講座 参考資料5 社会健康医学関連新聞記事 参考資料6 「健康寿命をのばそう!!!シンポジウム」について

## 1 審議事項

- (1) 静岡県が取り組むゲノムコホート研究について
- (2) 研究推進の拠点となる仕組みについて
- (3) 社会健康医学研究推進基本計画（仮称）の骨子（案）について
- (4) まとめ

## 2 審議内容

山口健康福祉部長から、資料2により「静岡県が取り組むゲノムコホート研究」について、資料3により「研究推進の拠点となる仕組み」について、資料4

により「社会健康医学研究推進基本計画（仮称）の骨子（案）」について説明した後、各委員による議論を行った。

(1) 静岡県が取り組むゲノムコホート研究について

- ・研究の規模は、調査結果に統計的な意味を持たせるには、通常では1万人以上を登録する必要がある。静岡で行う場合は、1万人から10万人くらいである。
- ・極端に言えば調査結果が出るのは20年後であり、それに基づいて疾病予防などの施策に反映させることになる。まさに将来を見据えた研究である。ただし、調査の途中でも、役立つ調査結果は県民に還元することができる研究とする。
- ・コホート研究の基礎調査は、結果が出るまでに時間がかかるが、1万人規模の生体情報があれば、様々な研究論文を書くこともできるので、すぐに成果を出すことも可能である。

(2) 研究推進の拠点となる仕組みについて

- ・研究の推進に当たっては、既存の大学や研究施設を活用して、できることから取り組むラインと、新たな仕組みを作って、長期的に人材育成をしながら取り組む2つのラインがある。県は、これを組み合わせて進めるべきである。
- ・当面できる研究に取り組みながら、地域に根ざした健康増進の研究を行う機関、又は研究と人材育成を行う大学院大学を目指すという方向性で取り組んでいくべきである。
- ・健康寿命延伸のための成果は、早期に県民へ還元する必要があるため、まずは、早期に取り組むことができる研究を行い、将来を見据えた研究をできる体制を整え、最終的に研究機関や大学院大学を目指すという、時系列で発展させていくことが望ましい。
- ・寄附講座や委託研究を行う場合、県が目指す将来的な方向性に合致したものとすべきである。
- ・県立総合病院のリサーチサポートセンターは、様々な医療研究を行い、論文を発表するなど県の医療の質の向上を行う施設となりうる。社会健康医学の研究は医療機関と連携して行う必要があるため、リサーチサポートセンターの活用は、大学院大学を目指す有効な手法となる。
- ・リサーチサポートセンターと違い、大学院大学には、学位や国家資格取得というモチベーションがある。人材育成にはモチベーションが有効で、地域に根ざした人材育成ができることが重要である。
- ・研究を推進するためには、非常に熱心で熱意を持ってパーソナリティも素晴らしい方、さらには、他の研究機関等とも交渉できる有能な方を招く必要がある。

(3) 社会健康医学研究推進基本計画（仮称）の骨子（案）について

- ・骨子については、事務局案で特段問題ない。

(4) まとめ

- ・ゲノムコホート研究を行う場合、研究者だけではなく、医療機関と連携して長期、継続的に研究する必要がある。
- ・地域で研究を行う場合、行政が上からやるのではなく、地域住民が啓発されて自発的に研究活動に協力してくれる環境を整備することが大切。
- ・大学院大学には、学位や国家資格の取得というモチベーションがある。有能で意欲ある医療専門職が静岡県に根付くためには、モチベーションが必要であり、大学院大学のメリットは大きいので、その方向に持っていくべきである。
- ・常に進化している医療を健康寿命延伸に還元するためには、人材育成が最も有効であり、常に研究する、学べる拠点が必要であり、大学院大学を目指すべきである。
- ・長期的かつ継続的に研究を行い、人材育成もするととなると大学院大学が最もふさわしいが、文部科学省の認可など時間を要するため、まずはリサーチサポートセンターを活用して研究を進めるとともに、医師や研究者を招へいして研究体制をつくり、大学院大学へ発展させていくことが望ましい。
- ・県民の理解促進のために、シンポジウムなどで市民に分かりやすく語りかける「語り部」が必要である。